

令和6年度第2回宗像市民図書館協議会議事録(要点筆記)

開催日時		令和6年9月26日(木) 14:00～15:30
開催場所		宗像ユリックス会議室3.4
出席者	委員	河内会長 森副会長 古沢委員 高杉委員 藤原委員 川上委員 白根委員 (正副会長、宗像市民図書館協議会条例第3条の順)
	事務局	図書課(中野課長、西谷係長、占部主任図書司書)

【議事内容】

(事務局) 宗像市民図書館協議会条例第6条第2号により、委員の過半数の出席が宗像市民図書館協議(以下、「協議会」という。)の成立条件である。本日は委員総数8人のうち7人が出席しているので、協議会は成立することを報告する。

1 開会のあいさつ

2 議事録署名委員の指名

署名委員: 高杉委員、川上委員

3 審議事項

宗像市読書推進アクションプランについて

(会 長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料「宗像市読書推進アクションプラン」(以下、「アクションプラン」という。))に沿って説明)

(会 長) 今後の図書館行政を推進するためのご意見をお願いします。

(会 長) 学校図書館について、アクションプランの分け方はいいと思う。資料や人など学校図書館を取り巻く環境の充実が重要であるが、その部分は反映している。学校図書館で活動している読み聞かせボランティアとの連携、市民図書館との連携、大島・地島への読書支援について、アクションプランに載せたほうがいいと思う。

(会 長) 項目をまとめたのはよいが、取組方針の中の事業が多い。事業が多くあることで、代表的な事業を1つ実施すると「他の事業をしなくてよいのではないか」と言われる不安がある。アクションプランの柱や項目数について、市の方針はあるのか。

(事務局) アクションプランの柱や項目の数に制約はない。目的を明確化するために項目をコンパクトにまとめているが、みなさんのご意見をいただいて検討したい。

(委 員) 市民図書館と学校図書館ではっきり分けて分かりやすくなったが、高校生や大学生の年代が抜け落ちているのではないかと。項目になくても事業を実施できるのか不安がある。何らかの形で項目立てて欲しい。

(委 員) 「福岡教育大学図書館との連携を検討」とあるが、具体的な案はあるのか。

(事務局) パスファインダーを作られているので、教職員を対象に学校図書館の利活用の観点で何か活用できないか考えている。

- (会 長) 福岡教育大学と限定せずに、市内の他の大学も入れてはどうか。毎年福岡教育大学の司書教諭養成講座で宗像市の取組みを紹介しているので、そのことも取り入れてはどうか。
- (委 員) 「SNSを活用した情報発信」とあるが、既に取り組んでいることはあるか。
- (事務局) 市と市民図書館のホームページ、市のSNS (LINE、Facebook) を活用して情報を発信している。
- (委 員) SNSで利用者との相互交流があるといい。
- (会 長) 図書課司書の業務はアクションプランのどこの部分に該当するか。
- (事務局) すべての事業が該当する。
- (委 員) 司書が何をしているのか、一般の市民は分かりにくい。
- (事務局) 司書は選書を始めたとした蔵書の構築で特に専門性を発揮している。市民と本を繋げるイベントや情報の発信など事業が多岐に渡るため、専門性の表現が難しい。
- (会 長) 柱の立て方で見せることができないか。レファレンスを他の事業とまとめずに、項目立てしてもいいかもしれない。
- (委 員) 宗像市独自の資料を世界中の人が調べられるようになればいい。また、子どもの数が減少し、学校の数も減る将来を見据えて、周年行事の記録といった学校の資料も集める必要がある。さらに、コミュニティ・センターが毎月発行しているたよりには、地域の古い遺跡のことなども書いてあるので、散逸する前にデータで集めるとよい。紙よりデータの方が無くならないし嵩張らない。「地域・行政資料のデジタル化検討」に当てはまると思うが、事業の具体的な取組みを別に管理してはどうか。司書はレファレンスにに応じてくれるが、AIチャットボットを活用すれば、時間外にも、質問に応じてくれる。「ホームページリニューアル検討」に具体的に書けばいいのではないか。
- (委 員) まずは紙ベースで資料を集め、地域情報コーナーで発信してはどうか。
- (事務局) 地域・行政資料の量は多いので、データ化するものを精査する必要がある。
- (委 員) デジタル化とは、今ある資料をデータ化することか。
- (事務局) その通り。また、行政資料も冊子ではなくデータで作成する傾向にあるので、今後の取り扱いを検討していく。
- (会 長) 学校には貴重な資料があるので、学校統廃合などの時に捨てられないように留意する必要がある。
- (委 員) いくつかの図書館で郷土資料をデジタル化してホームページにアップしているので、参考にして宗像のあゆみとして掲載するとよい。
- (委 員) 「魅力ある児童書を充実」の中に、優れた児童書の選書、購入、読み継がれた児童書の買替などをあげて、それを司書の仕事とし、その下にそれらを使って「テーマ別図書の展示」「ヤングアダルトコーナー」と続けてはどうか。
- (会 長) 選書をしっかり入れるのはよい。
- (委 員) 読書相談員やボランティアの養成も司書の仕事として入れるとよい。
- (委 員) 「電子博物館との連携検討」とはどういうことか。
- (事務局) 世界遺産課が管理している「電子博物館」と何か連携できないか検討している。
- (委 員) 市内の子ども関連施設には小学校・中学校も入るのか。
- (事務局) 0～18歳までの子どもを対象としているので、小学校、中学校、高校までを含む。
- (会 長) 読書推進ボランティアの活動場所はどこか。
- (事務局) 図書館や地域、学校で活動している。
- (会 長) 地域と学校でのボランティア活動がアクションプランに見えないのは惜しい気がする。

- (委員) 活動場所によってパターンが違っており、ボランティア活動を市民図書館にまとめられると活動が軽視される心配がある。
- (委員) CoCokara ひのさとに本があるなど、市民が本を楽しめる場所は図書館以外にもある。そういう場所は把握しているか。
- (事務局) 本に親しむことができる地域の施設を紹介した「ご近所ライブラリー」を作成し、市民図書館ホームページに掲載している。
- (委員) コミュニティ・センターに図書コーナーがあるが、一般的にあまり知られていない。
- (委員) 市内には個人で本を貸出している人もいるかもしれない。発掘して情報発信してはどうか。
- (会長) 労力が必要なので、アクションプランにしっかり項目立てするほうがよい。
- (会長) 外国籍の子どもが増えているなら、多言語サービスについて予算もつきやすいのではないか。
- (委員) 幼児教育の世界では、外国籍の子どもが増えている。
- (委員) 日本語指導が必要な児童・生徒も増えている。
- (会長) ある程度日本語が出来るようになると、次は母語の本を希望する場合もある。
- (事務局) 市内で必要とされている言語を把握する必要がある。
- (委員) 現在ボランティアは30団体ある。地図に活動場所をリンクさせてはどうか。
- (委員) 身近なところにある読書の拠点を市民図書館ホームページに掲載するとよいのではないか。
- (委員) 読み聞かせの機会に中学生のボランティアを参加させるなど、若い世代が地域で活躍できる場所があればよい。

4 その他

- ・第3回協議会の日程は、12月26日(木)10時からとする

署名委員 高杉 洋史

署名委員 川上 美子